

令和 3 年 6 月 13 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02164

研究課題名（和文）マントラ集成に基づくヤジュルヴェーダ学派及びその文献と祭式に関する研究

研究課題名（英文）Study on Yajurveda Schools, their texts and Vedic ritual based on the mantra collection

研究代表者

西村 直子（Nishimura, Naoko）

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90372284

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：ヴェーダ祭式文献の成立は、紀元前1200年頃まで遡ると考えられる。宗教、思想の歴史はもとより、当時の人々が如何に世界を理解し、共同体の維持、拡大を図り、異部族との交渉、共存或いは衝突に臨んだか、という人類社会の展開をも辿りうる、世界最古の資料の一つである。本研究では、その中のヤジュルヴェーダ諸学派が伝えるマントラ（祭詞、祝詞。紀元前1000頃）を取り上げた。当派は他の三ヴェーダ学派に先駆けて祭式整備を意図した文献編纂に着手し、精緻な神学議論の基盤を築いたと考えられる。その過程と各派の影響関係及び独自性を解明する為の出発点となる地検の提示を目指し、最古層に当たるマントラ集の訳注研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マントラに基づく祭式研究は、1920年代に学界を主導したCalandがその必要性を主張し、諸先学の共通認識とされながらも、4分の3世紀を経るまで課題として残されたままであった。近年、本邦の若手研究者による研究の中にマントラを扱った成果が見られるようになったが、その端緒となったのは申請者の博士論文である。ヤジュルヴェーダのマントラ及びブラーフマナ研究は、インドの宗教的伝統を通時的に論じる上で必須であり、また現代における宗教や社会の在り方を原初の姿から解明する手がかりにも富む。本邦がヴェーダ研究の世界的拠点となりうる可能性も潜在的に高く、本研究成果はその実現に寄与しうるものと自負している。

研究成果の概要（英文）： Vedic literature's codification goes back to ca. 1200 BC. The Veda is one of the oldest material by which we can trace the outline of the development of human society.

研究分野：インド学

キーワード：ヴェーダ ヤジュルヴェーダ マントラ ヴェーダ祭式

1. 研究開始当初の背景

ヴェーダ祭式文献の成立は B.C.1200 頃まで遡ると考えられる。宗教、思想の歴史はもとより、当時の人々が如何に世界を理解し、共同体の維持、発展を図り、対立部族との交渉、共存或いは衝突に臨んだか、という人類社会の展開をも辿りうる最古の資料の 1 つである。ヴェーダ文献のこのような側面が具体的な伝承に基づいて指摘可能となったのは、後述する通り近年に本邦で蓄積されてきた研究成果に依る所が大きい。本研究の目的は、それらの成果に基づき、ヤジュルヴェーダ学派による祭式整備の過程を最古層のマントラ集から跡づけることにある。

申請者は博士学位請求論文(2002 年提出, 2006 年出版)以降、ヤジュルヴェーダ各学派の全文献に基づく新月・満月祭の準備日に関する研究を、マントラ(一々の祭式行為に伴って唱えられる祭詞、祝詞。B.C.1000 頃)とブラーフmana(マントラの解釈、神学議論等。B.C.800 頃以降)を基本資料として行ってきた。その中で、新月・満月祭の歴史的展開とヤジュルヴェーダ学派及び同派の文献成立史に関していくつかの仮説を提示した。就中、以下の 2 点が重要である: 「1. 一般に理解されている供物とその対象となる神格との組み合わせは、祭式綱要書(シュラウターストラ, B.C.5C 頃)まで遡れるが、より古い本集(サンヒター)、儀規文献(ブラーフmana)の段階)では未だ定式化されていなかった可能性が強い; 2. ヤジュルヴェーダの主要 4 学派(マイトラーヤニーヤ、カタ、タイッティリーヤ、ヴァーージャサネーイン)は史的展開の点から保守的な前 2 者と革新的なヴァーージャサネーイン派とに分けられ、タイッティリーヤ派はその中間に位置すると考えられる。今回申請する新月祭・満月祭のマントラ集成の研究は、特に仮説 2. を検証し、学派の展開史や祭式の発展段階をより精密に跡づける上で必要不可欠な判断材料を提示することを目的とする。また 1. についても、マントラに含まれる神格名等を有力な判断根拠となし得る見込みがある。

従来の祭式研究では、マントラ解釈や祭式行為に関わる神話、神学議論等をまとめた「ブラーフmana」が古い時代の資料として中心的な役割を果たしてきた。その一方で、更に古い成立とされるマントラについては、具体的背景の確定や内容理解が困難であるといった点で、事実上等閑視されていたと言わざるを得ない状況であった。しかし、それはマントラを研究対象とするための方法論が確立されていなかったことに依るところが大きい。近年、ヴェーダ研究は言語、祭式、思想、社会等多岐にわたる成果を挙げ、マントラの具体的背景を検討することを可能にする状況が整備されてきた。その結果、個々のマントラの分布状況及び学派間の異同の整理等によって、ヴェーダ諸学派の成立及び分派の過程、各文献の成立次第、祭式の整備や展開を跡付ける上で多くの示唆が与えられることを申請者は指摘してきた。そのようなマントラ研究は本邦でようやく同世代の若手研究者に定着し始めて間もない。今後、マントラ研究が次世代に引き継がれ、国外にも根付き、更に広がってゆくためには、研究方法の整備と共有は焦眉の課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、祭式及び文献整備の過程と各学派の相互関係及び独自性、そしてヤジュルヴェーダ学派全体の展開史の解明に資する確実な資料を提示する。当派は他の 3 学派(リグヴェーダ、サーマヴェーダ、アタルヴァヴェーダ)に先駆けて祭式整備に着手し、精緻な神学議論の基盤を築いたと考えられる。その過程を解明する為の出発点となる知見が、本研究によって得られる見込みがある。また、これに付随して行う学派間の平行関係の分析、総合を通じて、マントラ研究の方法論の整備をも目指した。

3. 研究の方法

本研究では、ヤジュルヴェーダ全学派の新月祭・満月祭のマントラ章に採録されているマントラと、対応ブラーフmanaにおいて追加されているマントラとについて、Bloomfield による Vedic Concordance (Cambridge Mass. 1906) の電子新訂版を利用してすべての平行箇所を確認し、各文献が当該マントラをどの祭式のどの場面に定めているかを調査した。各文献の対応箇所に同一の、または類似するマントラが置かれることが予想されたが、同じマントラが複数の異なる祭式に用いられる場合もあり、分布状況は単純ではない。

ヤジュルヴェーダ全学派の新月祭・満月祭のマントラ章のローマナイズド・テキストの作成、翻訳、注解を行った。また、個々のマントラの平行関係を、Bloomfield, Vedic Concordance (Cambridge Mass. 1906) の新訂電子版によって確認し、どの学派がどのジャンルの文献(サンヒター、ブラーフmana、シュラウターストラ)の、どの祭式のどの場面で唱えることを定めているかをすべて調べた。この作業とそこから得られる分析結果とを通じて、学派間の相互関係等を精

査すると共に、マントラ研究の方法論を試験的に提示することをもめざした。

4. 研究成果

2016年度は、テキストの批判的確定、ローマナイズド・テキストの作成、翻訳及び仲介を勧めた。また、2回の招待発表を行った: リエージュ大学(ベルギー)で開催された国際シンポジウム“To the Sources of the Indo-Iranian Liturgies”において、“On the First mantra section of the Yajurveda-Samhita: Preparation for milking, or grazing of cows?”を発表し、ヴェーダ祭式研究とイラン学とが相互の発展に寄与し得る地検の共有と議論を行った。また、郡山女子大学で開催された第58回印度学宗教学会では、課題研究「儀礼と社会」において「ヴェーダ文献に辿る『祭主の人生』」を、京都大学人文科学研究所の研究班「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」(班長 藤井正人教授,当時)の研究会において「Daksayana 祭が示唆するもの - 祭式の整備と社会の変化」を発表した。

2017年度は「新月満月祭の供物の調理から祭場設営まで」において用いられるマントラについて作業を進めた。また、パネル報告組織1件(日本印度学仏教学会学術大会,花園大学),学会発表1件(日本佛教学会学術大会,東北大学),研究会における報告2件(共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム - 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」定例研究会,京都大学人文科学研究所,ヴェーダ文献研究会,東北大学),シンポジウムにおける発表1件(「ブラフマニズムとヒンドゥイズム - 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」シンポジウム「古代・中世インドの[儀礼][制度][社会],東京大学),研究会主催1件(ヴェーダ文献研究会,東北大学)を行った。

2018年度は国際学会発表1件(17th World Sanskrit Conference, Vancouver),国内学会発表1件(日本印度学仏教学会第69回学術大会,東洋大学),研究会における報告2件(「ブラフマニズムとヒンドゥイズム - 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」定例研究会,ヴェーダ文献研究会),シンポジウムにおける発表1件(「ブラフマニズムとヒンドゥイズム - 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」),研究会開催1件(ヴェーダ文献研究会)を行った。

個々のマントラがどの学派の文献のどの章に収められているか(または収められていないか),どの祭式のどの場面で用いられるか(または用いられないか)などの分布状況を整理することによって、ヴェーダ諸学派の成立及び分派の過程,各文献の成立次第,祭式の整備や展開を跡付ける上で多くの示唆が与えられる。

ヤジュルヴェーダ各学派の伝承は完全には一致していない。マントラ集成に限定しても,個々のマントラの採用,配列,適用する祭式の場面,各章の構成などの観点から相違点を指摘することが出来る。しかも,その相違の現れ方も多様である。ある章については一致または酷似する伝承を持つ2学派が,別の章については一致せず,一方は独自の内容,構成を持ち,他方は別学派との対応関係を示す,ということが,諸学派のあらゆる組み合わせのもとでしばしば起こる。個々のマントラについても同様である。更に,マントラがブラーフマナに引用される際,語句の変更,新たなマントラの追加などが見られることもある。このような状況は,文献編集の次第,各学派の相互関係,そして祭式全体の整備の過程を反映するものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 西村直子	4. 巻 45
2. 論文標題 ヴェーダ祭祀における家系の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集	6. 最初と最後の頁 (87) - (108)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Naoko Nishimura	4. 巻 -
2. 論文標題 Mantra Collections used for the Darsapurnamasa in the Taittiriya-Brahmana: Focusing on the Upavasatha day	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 6th International Vedic Workshop	6. 最初と最後の頁 651-668
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Naoko Nishimura	4. 巻 -
2. 論文標題 On the first mantra section of the Yajurveda-Samhita	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Religions (Presses Universitaires de Liege)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西村直子	4. 巻 83
2. 論文標題 仏典が伝える人間の『生活』 - フィールド調査と「伝統的」食品加工の再現実験, 並びに文献との照合を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教学会年報	6. 最初と最後の頁 136-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村直子	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 prajakama-とputrakama-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1042-1037
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村直子, 堂山英次郎, 尾園絢一, 大島智靖, 手嶋英貴, 後藤敏文	4. 巻 66-2
2. 論文標題 「『越境』するヴェーダ研究 - ヴェーダ文献研究の方法と広がり - 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 733-732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村直子	4. 巻 43
2. 論文標題 「ヴェーダ文献に辿る『祭主の人生』」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 論集	6. 最初と最後の頁 186-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村直子	4. 巻 83
2. 論文標題 「仏典が伝える人間の『生活』 - フィールド調査と「伝統的」食品加工の再現実験, 並びに文献との照合を通じて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教学会年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Nishimura	4. 巻 -
2. 論文標題 The Development of the New- and Full-Moon Sacrifices and the Yajurveda Schools: mantras, their brahmanas, and the offerings	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Vedic Sakhas: past, present, future: Proceedings of the Fifth International Vedic Workshop, Bucharest, 2011	6. 最初と最後の頁 227-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 ヴェーダ文献に言及される医療行為: 呪法の伝統とアーユルヴェーダ以前の医学
3. 学会等名 「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」全体会議 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Nishimura
2. 発表標題 Pravara mantras recited by Yajamana in the Yajurveda texts
3. 学会等名 7th International Vedic Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 ヴェーダ祭式における家系の意義
3. 学会等名 印度学宗教学会第60回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Nishimura
2. 発表標題 Rites for a delivery of fetus and afterbirth in Veda
3. 学会等名 17th World Sanskrit Conference (Veda section) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 prajakama-とputrakama-
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第69回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 ヴェーダ文献に現れる家族と社会の解明に向けて
3. 学会等名 第11回ヴェーダ文献研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 Pravaraにおいて祭主が唱えるmantraとそのbrahmana
3. 学会等名 共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 血統，家系はなぜ重視されたのか：祭官選任儀礼の整備を中心として
3. 学会等名 共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村直子，堂山英次郎，尾園絢一，大島智靖，手嶋英貴，後藤敏文
2. 発表標題 「『越境』するヴェーダ学 - ヴェーダ文献研究の方法と広がり（パネル発表）」
3. 学会等名 第68回日本印度学仏教学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 「伝典が伝える人間の『生活』 - フィールド調査と「伝統的」食品加工の再現実験，並びに文献との照合を通じて」
3. 学会等名 第87回日本仏教学会2017年度学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 「『家系の継続』に関する一考察 『シュナハシェーパの物語』と『クサ・ジャータカ』を中心として」
3. 学会等名 共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」定例研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 「古代インドにおける『息子の獲得』」
3. 学会等名 共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 「Taittiriya派とVajasaneyin派 - 新月満月祭におけるsamnayaを中心として」
3. 学会等名 第10回ヴェーダ文献研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 ヴェーダ文献に辿る「祭主の人生」（課題研究「儀礼と社会」）
3. 学会等名 印度学宗教学会第58回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoko Nishimura
2. 発表標題 On the first mantra section of the Yajurveda-Samhita: Preparation for milking, or grazing of cows?
3. 学会等名 AUX SOURCES DES LITURGIES INDO-IRANIENNES（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 Daksayana祭が示唆するもの - 祭式の整備と社会の展開 -
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所研究班「ブラフマニズムとヒンドウイズム」研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 日本佛教学会編（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 434
3. 書名 日本仏教学会叢書 人間とは何かII	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関